

※ 本記事はブログ記事として提供しています。その範疇のものとして捉えて下さい。

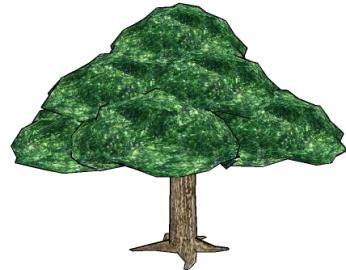
支援計画作成はこんな風に

個別支援計画のプランの「日常生活の指導」「体育」「自立活動」…と順繰りに辿って書いてしまうと、中心目標と、末端目標（あまり重要ではない目標）がどうしても混ざってしまいますよね。そんな時には、

①中心目標（幹となる目標）

②次点目標（枝となる目標）

③末端目標（葉となる目標）



をまず考えてから、支援プランを書き始めると良いですよ。①大切なこと ②そこそこ大切なこと ③指導はするけれど、まああまりガッカリはならないかもしれないことに分けてみると、大切なことが見えてくるかも知れません。葉っぱをモリモリさせずに、太い幹を描くように気をつけると普段の指導にも一本の幹が通ります。

以下は例示です。御参考までに。

-中心目標（「幹」となる目標）-

- ① (児童が)スペースの提示や順番表の手がかりを見て5分は集中して取り組むことができるようになる。
- ② (児童が)10分の間、「着席しながら取り組むことができる余暇活動」を作ることができるようになる。
- ③ (児童が)5文字程度の単語について、読んで、意味を捉え、行動につなげる事ができるようになる。

-次点目標（「枝」の目標）-

- ① (児童が)トイレの後にハンカチを使って手拭くことができるようになる。(保護者要望有)
- ② (児童が)給食の際、「嫌いな物を投げない」や「黙って人の食べ物を取らない」ができるようになる。
- ③ (児童が)「終わり」の合図で、次の活動にスムーズに移ることができるようになる。(特に遊びの指導時)

-末端目標（「葉」の目標）-

- ① (児童が)小便器を使って排泄ができるようになる。(要・保護者確認)
- ② (児童が)食事の際、食材の選り分けに手を使わないようになる。
- ③ (児童が)3行程ほどのご褒美シールを活動の支えにすることができるようになる。
- ④ (児童が)靴下を脱いだら自分で管理する。ストックカゴに入れる物を自分で管理できるようになる。

-自立活動目標(生活全般の下支えとなる力・教科目標の下支えとなる力)-

【心理的な安定】

- ・(児童が)見通しのある活動については、順番を丁寧に追って遂行することができるようになる。

【コミュニケーション】

- ・(児童が)言葉を解して、折り合いを付けることができるようになる。

※「(児童が)○○できるようになる」って理解すれば、目標が「先生の目標」になってしまふ事態を避けられると思います。子どもが何を学び、子どもがどうやって学び、子どもが何ができるようになるのか?が大切。